授業調査からみた授業改善（Ⅱ）

「2003年度～2008年度の動向」

磯　谷　彰　男

原　田　義　久

1．まえがき
2．授業調査票の設問
3．専門科目の集計結果と分析
4．教養教育科目の集計結果と分析
5．語学科目の集計結果と分析
6．体育科目の集計結果と分析
7．入学年度別平均ポイントの推移
8．あとがき

1．まえがき

本学名古屋商科大学での学生による授業評価は授業改善を目的に他大学に先駆けて平成２年（1990年）から始まり本年平成21年（2009年）で20年となり、授業の流れの一環として定着している。学生による授業評価は本学では授業調査とよばれ、集計結果は教員にフィードッバクされている。授業調査票には教員が学生に問いかける設問を設定できる欄や学生の希望や自由に意見を述べる欄を設けてあり、学生と教員を結ぶ重要な手段となっている。授業調査票には授業改善へつながる示唆に富む情報が数多く含まれ、学生の授業への意向を汲み取る重要な手段となっている。教員は講義が学生にどのように受けとめられているかを把握し、授業改善に活用している。評価の値は年々高くなっており、教員の努力が成果を収めつつある。

本学における授業調査の実施方法などの概要については本学の教育白書「21世紀の大学像を求めて」[1)]に記述した。前期および後期の期毎に最終講義の時間に学生が授業調査票に記入し、講義時間内に回収している。授業調査は開講しているすべての授業が対象となっている。2002年度の授業調査について様々な面から分析し、授業改善につながる留意点については既に報告した[2)]。

本報は前回の報告後の2003年度から2008年度までの授業調査の集計結果について全体をデータ集の形でまとめるとともに、６年間の経時変化に注目して分析し、その間の動向を検討したものである。全体の変化の流れの把握を重視し、後期授業調査の結果に焦点を合わせている。

2．授業調査票の設問

授業調査票は初期には全科目とも同じ調査票を用いていたが、現在ではカリキュラムの分類

にしたがって専門科目、教養教育科目、語学科目、体育科目と科目の性格により四つの群に分け、それぞれの科目群に適した調査票を作成している。授業調査票の設問は授業の技法に加えて、教務委員会や FD 会で検討されている教育方針の実施を支援することを意図し、設問は毎年見直している。2003年度（以後、西暦は03年度と下二桁で表記、図表のなかでは３年と下一桁で表記する）から08年度までのすべての設問を図表１に示す。図表で各設問の末尾の［　　］に書かれた言葉は設問のキーワードである。授業調査票には記載されていない。本稿での説明をわかりやすくするため記載したもので、設問の番号の代わりに設問をキーワードで表示する。

それぞれの科目の授業調査票について以下に説明する。

（１）専門科目

専門科目の調査票の設問を図表１(a) に示す。調査票の設問は毎年13項目設定している。図表１(a)は６年間で設定した設問すべてを網羅した。設問は「学生の所属」、「授業の位置づけ」、

図表１(a)　専門科目の授業調査票設問

この調査は、学生の意見を授業運営に反映させることを目的として行うものです。教員は調査結果を参考にして種々の工夫を重ね、よりよい授業運営に努めますので、皆さんからの誠実な回答と率直な意見を期待しています。なお、この結果は本学ホームページで公開されます。

回答方法：調査票の設問番号ごとの A～E の欄に｜を記入してください。
回答は一問一答でお願いします。

番号　「設問」

(a)　あなたの学部または所属大学を答えてください。
A：マーケティング学部　B：経営学部　C：経済学部　D：会計ファイナンス学部　E：経営情報学部
F：総合経営学部　G：外国語学部　H：光陵女子短期大学　（平成20年度）

（b）あなたの学年を答えてください。　A：１年　B：２年　C：３年　D：４年

設問には次の基準に従って答えてください。
A：全くその通りである　B：その通りである　C：普通
D：そうではなかった　E：全然そうではなかった

	[設問のキーワード]
１）先生はこの授業を学ぶ目的や到達目標について説明した。	［目標］
２）この授業の目的ははっきりしていた。	［目的］
３）シラバス（講義計画書）は授業の全体像を理解するうえで役に立った。	［シラバス］
４）この授業は重点が分かりやすく工夫されていた。	［重点のわかりやすさ］
５）先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。	［話し方］
６）この授業の教科書や配付資料は適切であった。	［教科書・資料］
７）先生は教育機器（白板、AV 機器、Bb、インターネットなど）を効果的に使用した。	［教育機器活用］
８）先生から提示された課題は教科の理解を深めるうえで有用であった。	［課題の有用性］
９）この授業は知的興味や新しい視点をもたらすものであった。	［興味・新視点］
10）この授業は知的興味をひきつけるものであった。	［知的興味］
11）この授業は社会で役立つ知識や考え方の修得に役立った。	［知識・考え方］
12）この授業によってこの分野に対する理解と興味が深まった。	［理解・興味］
13）私はこの授業の内容をよく理解できた。	［理解］
14）成績評価の基準は事前に明示されていた。	［成績評価基準］
(c)　先生の教え方には熱意が感じられた。	［教員の熱意］
(d)　私はこの授業に満足した。	［学生の満足度］
(e)　私はこの授業に熱心に取り組んだ。	［学生の熱心度］

任意の設問欄（２設問）

（裏面）

１）この授業でどの点がよかったと思いますか。
２）この授業でどの点を改善すればよいと思いますか。
３）この授業に関するあなたの自由な意見を聴かせてください。

「授業の進め方」、「授業の内容」、「全体評価」に関するものである。「学生の所属」の設問では設問（a）で学生の所属学部、設問（b）で学年を記入する。「全体評価」の設問（c）は教員の姿勢、設問（d）は設問の総まとめに相当し、設問（e）は学生の取組み姿勢である。この設問（a）～設問（e）の５項目は各科目の調査票すべてに共通している。

各設問に対して次ぎの５段階で評価させている。

A：全くその通りである　　B：その通りである　　C：普通

D：そうではなかった　　E：全然そうではなかった

データ処理にあたってはA、B、C、D、Eをそれぞれ５、４、３、２、１とし、数値化している。

教員の中には授業を進めるそれぞれの立場から学生に尋ねたい事項がある。それには設問追加の欄を設け対応可能にしている。

裏面に当該授業に関するする要望をはじめ教員、大学に伝えたい意見を自由に記入できる記載欄を設けている。記入された事項には建設的な意見から無責任な発言まで種々のものがあるが、調査票の表面の評価値から授業聴講の態度を知ることができ、学生の声を聴く重要な資料となっている。

（２）教養教育科目

教養教育科目の設問を図表１(b) に示す。教養教育科目の調査票は専門科目の調査票に準じている。設問はほとんど専門科目と共通しているが、教養教育科目では学ぶ意欲の増進や視野の広がりを問いかける設問を設けている。

図表１(b)　教養教育科目の授業調査票設問

前文、(a)、(b)、裏面の設問は専門科目調査票と同じ

[設問]	[設問のキーワード]
１）先生はこの授業を学ぶ目的や到達目標について説明した。	[目標]
２）この授業の目的ははっきりしていた。	[目的]
３）シラバス（講義計画書）は授業の全体像を理解するうえで役に立った。	[シラバス]
４）この授業は重点が分かりやすく工夫されていた。	[重点のわかりやすさ]
５）先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。	[話し方]
６）この授業の教科書や配付資料は適切であった。	[教科書・資料]
７）先生は教育機器（白板、AV 機器、Bb、インターネットなど）を効果的に使用した。	[教育機器活用]
８）先生から提示された課題は教科の理解を深めるうえで有用であった。	[課題の有用性]
９）この授業は知的好奇心をよび起すものであった。	[知的好奇心]
10）この授業は学生が興味をもつよう工夫されていた。	[興味]
11）私はこの授業で学ぶ意欲が湧いた。	[意欲]
12）私はこの授業により視野が広くなった。	[視野の広がり]
13）私はこの授業の内容をよく理解できた。	[理解]
14）成績評価の基準は事前に明示されていた。	[成績評価基準]
(c) 先生の教え方には熱意が感じられた。	[教員の熱意]
(d) 私はこの授業に満足した。	[学生の満足度]
(e) 私はこの授業に熱心に取り組んだ。	[学生の熱心度]

（３）語学科目

語学科目の調査票の設問を図表１(c) に示す。語学科目の調査票も専門科目の調査票に準じている。「授業の進め方」は専門科目と共通する項目が多いが、「授業の内容」の設問は語学教育にふさわしいものとなっている。

図表１(c)　語学科目の授業調査票設問

前文、(a)、(b)、裏面の設問は専門科目調査票と同じ

[設問]	[設問のキーワード]
１）先生はこの授業を学ぶ目的や到達目標について説明した。	[目標]
２）この授業の目的ははっきりしていた。	[目的]
３）シラバス（講義計画書）は授業の全体像を理解するうえで役に立った。	[シラバス]
４）先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。	[話し方]
５）この授業の教科書や配付資料は適切であった。	[教科書・資料]
６）先生は教育機器（白板、AV 機器、Bb、インターネットなど）を効果的に使用した。	[教育機器活用]
７）先生から提示された課題（SAC での自主学習やプロジェクトなど）は教科の理解を深めるうえで有用であった。	[課題の有用性]
８）先生の指導は学生の習熟度（レベル）についてよく考慮されていた。	[習熟度考慮]
９）私はこの授業で先生とよいコミュニケーションを図ることができた。	[コミュニケーション]
10）私はこの授業で学ぶ意欲が湧いた。	[意欲]
11）私はこの授業の内容をよく理解できた。	[理解]
12）この授業は語学力向上にとって効果的であった。	[語学力向上]
13）成績評価の基準は事前に明示されていた。	[成績評価基準」
(c) 先生の教え方には熱意が感じられた。	[教員の熱意]
(d) 私はこの授業に満足した。	[学生の満足度]
(e) 私はこの授業に熱心に取り組んだ。	[学生の熱心度]

（４）体育科目

体育科目の調査票の設問を図表１(d) に示す。体育科目の調査票も他科目の調査票に準じている。体育科目は他科目と性格が異なるため、体育科目の教育目的にふさわしい設問となって

図表１(d)　体育科目の授業調査票設問

前文、(a)、(b)、裏面の設問は専門科目調査票と同じ

[設問]	[設問のキーワード]
１）先生はこの授業を学ぶ目的や到達目標について説明した。	[目標]
２）この授業の目的ははっきりしていた。	[目的]
３）シラバス（講義計画書）は授業の全体像を理解するうえで役に立った。	[シラバス]
４）この授業は重点が分かりやすく工夫されていた。	[重点のわかりやすさ」
５）先生の指示は的確であった。	[指示]
６）先生は学生が積極的に参加するように奨励した。	[積極的参加]
７）先生とのコミュニケーションがうまく図れた	[コミュニケーション]
８）この授業は基礎体力・技術向上に役立つものであった。	[体力・技術]
９）私はこの授業によりスポーツの楽しみ方が身についた。	[楽しみ方]
10）この授業はチャレンジ精神を高めるものであった。	[チャレンジ精神]
11）成績評価の基準は事前に明示されていた。	[成績評価基準」
(c) 先生の教え方には熱意が感じられた。	[教員の熱意]
(d) 私はこの授業に満足した。	[学生の満足度]
(e) 私はこの授業に熱心に取り組んだ。	[学生の熱心度]

いる。

3．専門科目の集計結果と分析

（1）平均ポイントの推移

専門科目の講義の総数は183で、学生から提出された調査票の総数（サンプル数）は約11,000点である（08年度後期）。03年度から08年度までの後期における専門科目の各設問の集計結果を図表2（a）に示す。空白欄はその年度には設問がなかったことによる（以後同じ）。そのなかで継続的に実施しているいくつかの設問について経時的変化を図表3（a）に示す。平均ポイントは全体的に右上がりの傾向を示し、いずれの設問においてもほぼ0.2上昇している。また平均ポイントが高い設問は［教員の熱意］で、低い設問は［学生の熱心度］となっている。他の設問の多くはその間にある。

［シラバスの有用性］について08年度に設問した。平均ポイントは3.80と高い値である。97年度では2.61であり、大幅に向上し1.2ポイント高くなった。その間、シラバスの書き方については種々の改善が行われている。03年度からシラバスには講義の目的を記入することになった。03年から05年までの［目的］の設問のポイントは3.9台と高い値である。06年度からは目的に加えて、講義の履修後の到達目標を記入することになった。［目標］の平均ポイントは3.9台の後半、4.0に近くなっている。［目的］さらには［目標］を学生に明示したことも上昇の一因であろう。

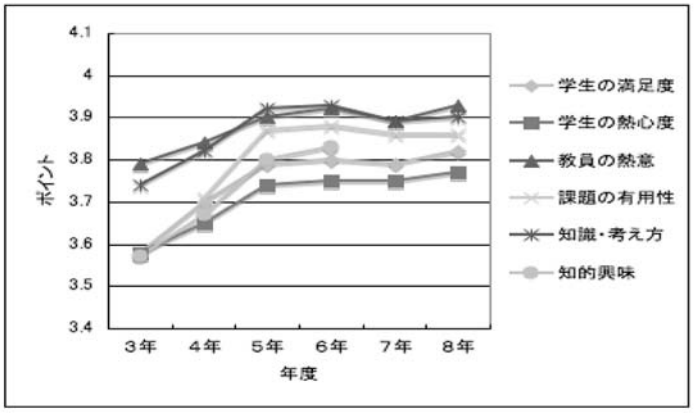
［理解度］については05年度、06年度に設問した。平均ポイントは3.6台であった。01年度、02年度では3.2台であり、0.4ポイント上昇している。［理解度］のポイントを高くするために講義のレベルを下げれば「教育の質の保証」を守ることはできない。義務教育とは異なり高等教育では少し高めの目標を与え、学生に理解するための努力をさせることが大切であり、3.6は妥当な値と考えてよいであろう。

図表2（a）　専門科目設問の平均ポイント

設問キーワード	3年	4年	5年	6年	7年	8年
目標				3.97	3.94	3.95
目的	3.91	3.96	3.97			
シラバス						3.8
重点の分かりやすさ	3.63	3.69	3.83		3.81	3.81
話し方	3.73	3.76		3.92		
教科書．資料	3.72	3.79	3.9	3.9	3.84	3.85
教育機器	3.73	3.86	3.95	3.98	3.97	3.93
課題の有用性		3.71	3.87	3.88	3.86	3.86
理解．興味					3.78	3.79
知的興味	3.57	3.67	3.8	3.83		
知識・考え方	3.74	3.82	3.92	3.93	3.89	3.9
理解			3.62	3.63		
成績評価基準					3.98	
教員の熱意	3.79	3.84	3.9	3.92	3.89	3.93
学生の満足度	3.58	3.7	3.79	3.8	3.79	3.82
学生の熱心度	3.58	3.65	3.74	3.75	3.75	3.77

図表３(a)　専門科目平均ポイントの経時変化

	３年	４年	５年	６年	７年	８年
学生の満足度	3.58	3.7	3.79	3.8	3.79	3.82
学生の熱心度	3.58	3.65	3.74	3.75	3.75	3.77
教員の熱意	3.79	3.84	3.9	3.92	3.89	3.93
課題の有用性		3.71	3.87	3.88	3.86	3.86
知識・考え方	3.74	3.82	3.92	3.93	3.89	3.9
知的興味	3.57	3.67	3.8	3.83		

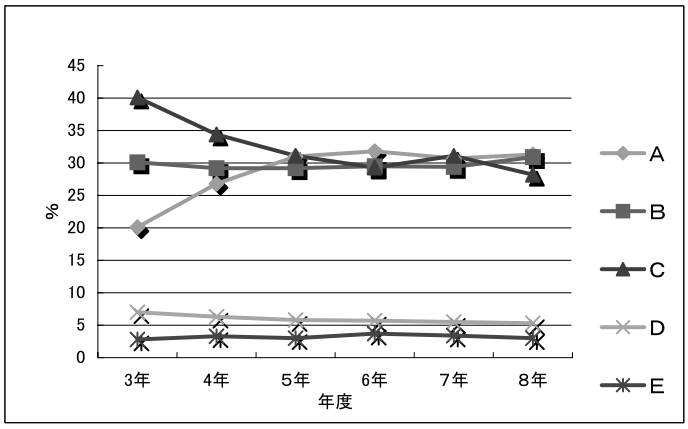


（２）平均ポイントの内訳

専門科目の「学生の満足度」は03年度から05年度までに0.2ポイント上昇し、その後は漸増である。「学生の満足度」について学生はA、B、C、D、Eのいずれで評価しているかの内訳を分析する。専門科目の内訳を図表４(a)に示す。Aと評価している学生は03年には20%であっ

図表４(a)　専門科目満足度評価の内訳

評価	３年	４年	5年	６年	7年	8年
A	20.1	26.8	31	31.8	30.7	31.3
B	30.1	29.2	29.2	29.5	29.4	30.9
C	40.1	34.4	31.1	29.3	31.1	28.2
D	7	6.3	5.8	5.7	5.5	5.3
E	2.8	3.3	3	3.7	3.4	3

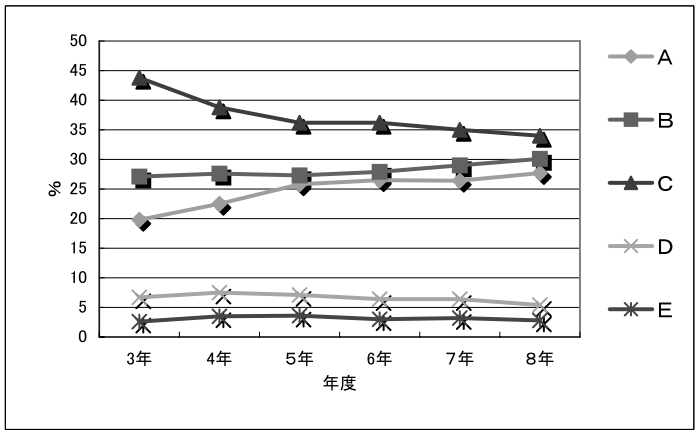


たが、05年には30％と10％増加している。B で評価した学生は毎年約30％である。08年度では講義を肯定的に評価した学生（以後 A＋B と記す）は50％から60％強となり、10％強増加している。C で評価した学生は40％から28％まで減少している。D、E の否定的な評価の学生は合わせても（以後 D＋E と記す）10％弱と少なく、しかも漸減傾向にある。専門科目は難解な点も多いが、60％を超える学生が評価しておりかなり満足できるものであろう。

同様に「学生の熱心度」の内訳を図表５(a) に示す。「学生の満足度」とほぼ同様の傾向を示している。A と評価した学生は20％から28％と６年間で８％増加している。B で評価した学生は27％から30％と３％増加し、非常に熱心および熱心に取組むと回答した学生(A+B)が11％増加し、57％となっている。学業とは本来自ら学ぶ姿勢が基本であり、教えることはそれを支援することである。その視点からすれば「学生の熱心度」は「学生の満足度」以上に重要であり、熱心に取組む学生が11％増加したことは評価できる。C で評価した学生は10％減少し、34％となっている。D、E で評価しているすなわち熱心に取組んでいない学生（D＋E）は８％ほどいる。それらの学生はいわゆる講義形式の授業になじめない学生であり、教育の多様化のなかで別の手法で育成を図ることが望まれる。

図表５(a)　専門科目熱心度評価の内訳

学生の熱心度	３年	４年	5年	６年	7年	8年
A	19.8	22.5	25.8	26.5	26.4	27.7
B	27.1	27.6	27.3	27.9	29	30.1
C	43.8	38.8	36.2	36.2	35	34
D	6.7	7.5	7.1	6.4	6.4	5.4
E	2.6	3.5	3.6	3	3.2	2.8



（３）設問間の相関

図表６(a) に08年度の設問間の相関係数を示す。多くの設問間で高い相関があるが、なかでも「学生の満足度」と「学生の熱心度」の相関は0.93と極めて高い。どちらが原因でどちらが結果であるかは議論があるが、「学生の満足度」を高めることが「学生の熱心度」の高い学生を増加させることになるであろう。「学生の満足度」と高い相関をもつ設問には「理解・興味」、「重点の工夫」があり、より魅力ある講義にするために教員はそれらの設問の事項に対して留意する必要があろう。

図表６(a)　専門科目設問間の相関関係数

	設問３	設問４	設問５	設問６	設問７	設問８	設問９	設問10	設問11	設問12	設問13
設問３		0.86	0.86	0.87	0.74	0.83	0.88	0.87	0.88	0.88	0.80
設問４			0.91	0.91	0.84	0.89	0.89	0.85	0.83	0.92	0.85
設問５				0.91	0.81	0.90	0.90	0.85	0.81	0.94	0.89
設問６					0.80	0.88	0.89	0.85	0.83	0.91	0.85
設問７						0.81	0.76	0.72	0.67	0.78	0.74
設問８							0.91	0.84	0.82	0.92	0.89
設問９								0.93	0.87	0.95	0.91
設問10									0.85	0.91	0.86
設問11										0.90	0.81
設問12											0.93
設問13											

設問項目
設問３　先生はこの授業を学ぶ目的や到達目標について説明した。
設問４　シラバス（講義計画書）は授業の全体像を理解するうえで役に立った。
設問５　この授業は重点が分かりやすく工夫されていた。
設問６　この授業の教科書や配付資料は適切であった。
設問７　先生は教育機器（白板、AV 機器、Bb、インターネットなど）を効果的に使用した。
設問８　先生から提示された課題は教科の理解を深めるうえで有用であった。
設問９　この授業によってこの分野に対する理解と興味が深まった。
設問10　この授業は社会で役立つ知識や考え方の修得に役立った。
設問11　先生の教え方には熱意が感じられた。
設問12　私はこの授業に満足した。
設問13　私はこの授業に熱心に取り組んだ。

４．教養教育科目の集計結果と分析

（１）平均ポイントの推移

教養教育科目の講義の総数は106で、学生から提出された調査票の総数（サンプル数）は約7,000点である（08年度後期）。03年度から08年度までの後期における教養教育科目の全設問の平均ポイントを図表２(b)に示す。そのなかでいくつかの設問について経時的変化を図表３(b)に示す。平均ポイントは06年度を除けば右上がりの傾向が著しい。継続的に実施している設問では６年間で0.3〜0.4ポイント上昇している。教養教育科目の平均ポイントは専門科目よりも少し低い値で推移していたが、08年度には専門科目よりも0.1程度高くなった。［教員の熱意］と［教育機器活用］の平均ポインとは4.0を超えている。また専門科目と同様に平均ポイントが最も高い設問は［教員の熱意］で、最も低い設問は［学生の熱心度］となっている。他の設問はその間にある。

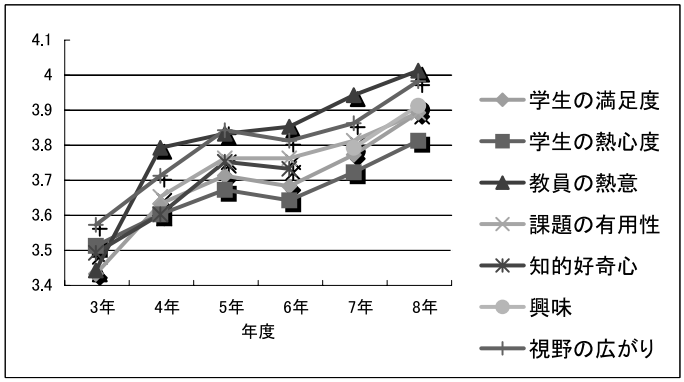
［シラバスの有用性］は専門科目と同様3.83と高い。高くなった理由は専門科目の節で記した。［理解度］については06年度では3.53である。08年度の「学生の熱心度」は06年度から08年度までに0.17ポイント上昇しており、08年度では［理解度］は3.6台になっていると推定される。ほぼ満足される値と考えてよいであろう。

図表２(b)　教養教育科目設問の平均ポイント

設問キーワード	３年	４年	５年	６年	７年	８年
目標				3.85	3.94	3.99
目的	3.83	3.93	3.93			
シラバス						3.83
重点の分かりやすさ	3.51	3.66	3.75			
話し方	3.63	3.76		3.83		
教科書・資料	3.53	3.76	3.76	3.74	3.83	3.93
教育機器活用	3.75	3.86	3.93	3.83	3.9	4.01
課題の有用性		3.65	3.76	3.76	3.81	3.89
知的好奇心	3.49	3.6	3.75	3.73		
興味					3.79	3.91
意欲					3.68	3.81
視野の広がり	3.57	3.71	3.84	3.81	3.86	3.98
理解			3.57	3.53		
成績評価基準					3.95	
教員の熱意	3.44	3.79	3.83	3.85	3.94	4.01
学生の満足度	3.43	3.63	3.71	3.68	3.77	3.89
学生の熱心度	3.51	3.6	3.67	3.64	3.72	3.81

図表３(b)　教養教育科目平均ポイントの経時変化

	３年	４年	５年	６年	７年	８年
学生の満足度	3.43	3.63	3.71	3.68	3.77	3.89
学生の熱心度	3.51	3.6	3.67	3.64	3.72	3.81
教員の熱意	3.44	3.79	3.83	3.85	3.94	4.01
課題の有用性		3.65	3.76	3.76	3.81	3.89
知的好奇心	3.49	3.6	3.75	3.73		
興味					3.79	3.91
視野の広がり	3.57	3.71	3.84	3.81	3.86	3.98



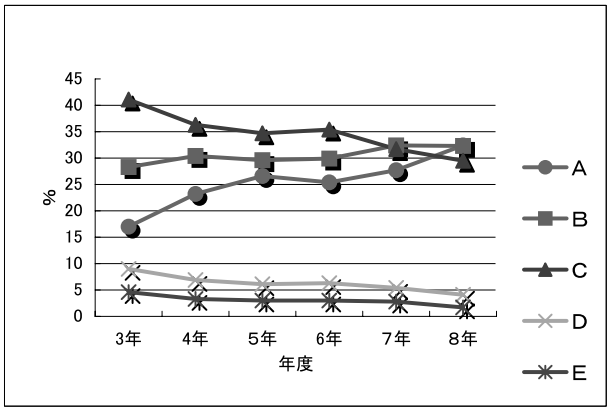
（２）平均ポイントの内訳

教養教育科目の「学生の満足度」は03年度から08年度までに0.46ポイントと大きく上昇している。「学生の満足度」について学生はA、B、C、D、Eのいずれで評価しているかの内訳を図表４(b)に示す。Aと評価している学生は03年には17.0％であったが、05年には32.4％とほぼ２倍となっている。Bの学生も4.0％上昇ししている。Cの学生は41.1％から29.5％と10％強減少している。さらに否定的な学生（C＋D）は13.6％から5.8％と半減している。

「学生の熱心度」の内訳を図表５(b) に示す。「学生の満足度」とほぼ同様の傾向を示している。熱心な学生（A＋B）が60％と半数を超え、熱心でない学生（C＋D）が半減した。熱心でない学生の激減は注目すべきことで、カリキュラム上の様々な改善が功を奏していると考えてよいであろう。

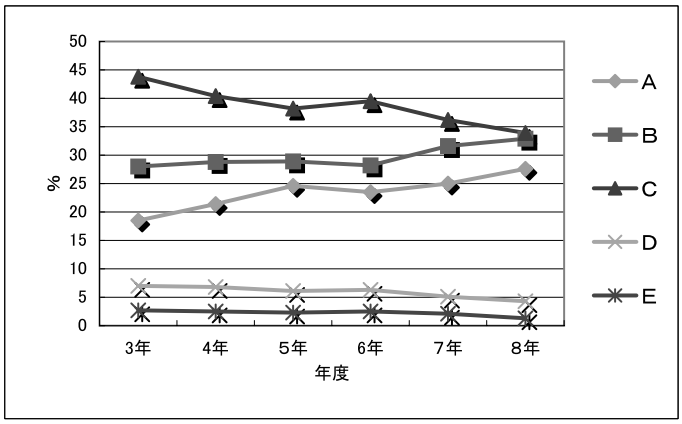
図表４(b)　教養教育科目満足度評価の内訳

評価	３年	４年	5年	６年	7年	8年
A	17	23.2	26.6	25.4	27.7	32.4
B	28.3	30.4	29.6	29.9	32.4	32.3
C	41.1	36.3	34.7	35.4	31.7	29.5
D	9	6.9	6.1	6.3	5.4	4.1
E	4.6	3.3	3	3	2.8	1.7



図表５(b)　教養教育科目熱心度評価の内訳

評価	３年	４年	5年	６年	7年	8年
A	18.5	21.4	24.6	23.5	25	27.6
B	28	28.8	28.9	28.2	31.6	32.9
C	43.8	40.4	38.2	39.5	36.2	33.9
D	7	6.8	6.1	6.3	5.1	4.3
E	2.7	2.5	2.3	2.5	2.1	1.3



（３）設問間の相関

図表６(b) に08年度の設問間の相関係数を示す。教養教育科目の相関は専門科目の相関とよく似たものとなっている。多くの設問間で高い相関があるが、なかでも「学生の満足度」と「学生の熱心度」の相関は0.94と極めて高い。「学生の満足度」と相関の非常に高い設問は「意欲」、「興味」、「視野の広がり」などである。それらは当然「「学生の熱心度」とも相関が高い。

図表６(b)　教養教育科目設問間の相関関係数

	設問３	設問４	設問５	設問６	設問７	設問８	設問９	設問10	設問11	設問12	設問13
設問３		0.90	0.86	0.90	0.67	0.87	0.86	0.85	0.87	0.92	0.89
設問４			0.87	0.90	0.72	0.88	0.87	0.84	0.81	0.91	0.83
設問５				0.87	0.77	0.87	0.94	0.88	0.84	0.95	0.87
設問６					0.71	0.87	0.87	0.86	0.80	0.92	0.86
設問７						0.68	0.67	0.64	0.56	0.71	0.63
設問８							0.90	0.88	0.85	0.93	0.92
設問９								0.91	0.86	0.95	0.90
設問10									0.85	0.93	0.88
設問11										0.90	0.87
設問12											0.94
設問13											

設問項目
設問３　先生はこの授業を学ぶ目的や到達目標について説明した。
設問４　シラバス（講義計画書）は授業の全体像を理解するうえで役に立った。
設問５　この授業は学生が興味をもつよう工夫されていた。
設問６　この授業の教科書や配付資料は適切であった。
設問７　先生は教育機器（白板、AV 機器、Bb、インターネットなど）を効果的に使用した。
設問８　先生から提示された課題は教科の理解を深めるうえで有用であった。
設問９　私はこの授業で学ぶ意欲が湧いた。
設問10　私はこの授業により視野が広くなった。
設問11　先生の教え方には熱意が感じられた。
設問12　私はこの授業に満足した。
設問13　私はこの授業に熱心に取り組んだ。

５．語学科目の集計結果と分析

（１）平均ポイントの推移

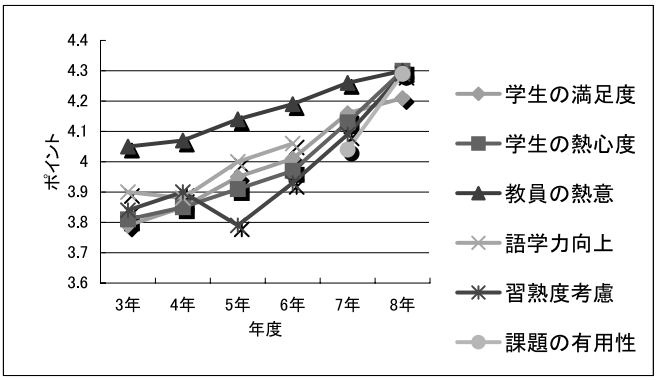
語学科目の講義の総数は181で、学生から提出された調査票の総数（サンプル数）は約3,500点である（08年度後期）。03年度から08年度までの後期における語学科目の全設問の平均ポイントを図表２(c) に示す。語学科目ではどの設問に対しても平均ポイントは高い。07年度以降ではどの設問とも4.0を超えている。いくつかの設問について経時的変化を図表３(c) に示す。平均ポイントは全体的に右上がりの傾向を示し、設問により0.2～0.5ポイント上昇している。また平均ポイントが最も高い設問は[教員の熱意]であり、教員の学生に対する熱意が伺える。語学科目で注目されることは［学生の熱心度］が3.8から4.3と６年間で0.5ポイント上昇し、08年度には設問のなかで最も高い値を示していることである。平均値として4.3は極めて高い

図表２(c)　語学科目設問の平均ポイント

設問キーワード	３年	４年	５年	６年	７年	８年
目標			3.91	4.06	4.12	4.2
目的						
シラバス						4.07
話し方	4.11	3.95	4.03	4.1	4.19	4.11
教科書・資料	3.89	3.83	3.95	3.99	4.13	4.24
教育機器	3.96	3.86	3.89	3.97	4.06	4.1
課題の有用性					4.04	4.29
アドバイス			3.48	3.6		
参加	4.14	4				
習熟度考慮	3.98	3.9	3.79	3.93	4.09	4.29
コミュニケーション	3.99	3.83		3.99	4.16	4.15
意欲		3.77	3.86			
語学力向上	4.04	3.88	4	4.06		
成績評価基準					4.1	
教員の熱意	4.24	4.07	4.14	4.19	4.26	4.3
学生の満足度	4.01	3.85	3.95	4.01	4.16	4.21
学生の熱心度	4.04	3.85	3.91	3.97	4.13	4.3

図表３(c)　語学科目平均ポイントの経時変化

	３年	４年	５年	６年	７年	８年
学生の満足度	3.79	3.85	3.95	4.01	4.16	4.21
学生の熱心度	3.81	3.85	3.91	3.97	4.13	4.3
教員の熱意	4.05	4.07	4.14	4.19	4.26	4.3
語学力向上	3.9	3.88	4	4.06		
習熟度考慮	3.84	3.9	3.79	3.93	4.09	4.29
課題の有用性					4.04	4.29



値である。また［学生の満足度］も0.4ポイント上昇している。

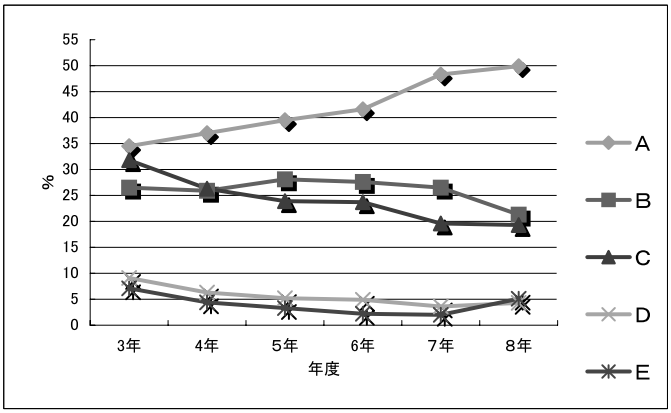
［シラバスの有用性］について08年度に設問した。平均ポイントは4.07と高い値である。97年度では2.72であり、大幅に向上し約1.3ポイント高くなった。その間、シラバスの書き方については種々の改善が行われたことは既に述べた。［習熟度考慮］も3.84から4.29と大幅に上昇している。教員の熱意を裏付けるものであろう。

（２）平均ポイントの内訳

語学科目の「学生の満足度」や「学生の熱心度」の平均ポイントの上昇は著しい。その内訳を図表４(c) および図表５(c) に示す。いずれも A で評価する学生が15％程度増加し50％、すなわち半数の学生が非常に満足し、熱心に学んでいることを示している。B の評価する学生まで含めれば70％の学生が肯定的に対応している。一方、否定的（D＋E）の学生も10％程度存在している。

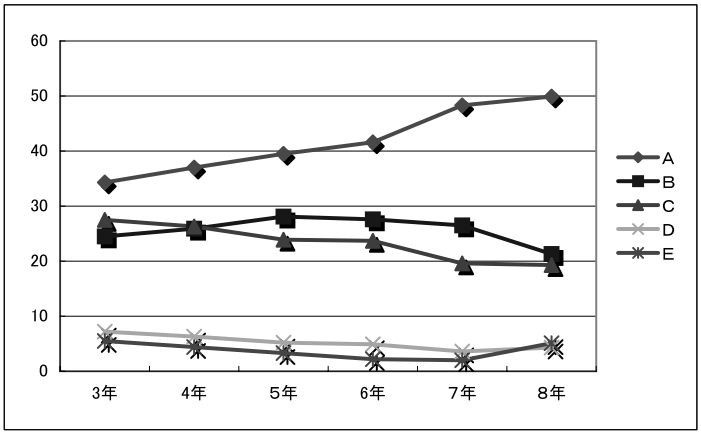
図表４(c)　語学科目満足度評価の内訳

評価	３年	４年	5年	６年	7年	8年
A	34.5	37	39.5	41.6	48.3	49.9
B	26.5	25.9	28.1	27.6	26.5	21.3
C	31.8	26.3	23.9	23.7	19.6	19.3
D	9.1	6.3	5.2	4.9	3.6	4.3
E	7.1	4.4	3.3	2.2	2	5.1



図表５(c)　語学科目熱心度評価の内訳

評価	３年	４年	5年	６年	7年	8年
A	34.3	37	39.5	41.6	48.3	49.9
B	24.5	25.9	28.1	27.6	26.5	21.3
C	27.5	26.3	23.9	23.7	19.6	19.3
D	7.2	6.3	5.2	4.9	3.6	4.3
E	5.5	4.4	3.3	2.2	2	5.1



（３）設問間の相関

図表６(c) に語学科目の08年度の設問間の相関係数を示す。語学は他の科目と較べてさらに相関が高い。なかでも「学生の満足度」と「教員の熱意」の相関は0.96と極めて高く、教員の熱意が「学生の満足度」や「学生の熱心度」に反映され易いことが推定される。

図表６(c)　語学科目設問間の相関関係数

	設問３	設問４	設問５	設問６	設問７	設問８	設問９	設問10	設問11	設問12	設問13
設問３		0.96	0.90	0.93	0.87	0.79	0.90	0.90	0.93	0.93	0.90
設問４			0.91	0.92	0.87	0.78	0.90	0.90	0.90	0.91	0.89
設問５				0.91	0.88	0.77	0.93	0.88	0.90	0.94	0.91
設問６					0.87	0.82	0.93	0.89	0.94	0.95	0.91
設問７						0.75	0.88	0.82	0.88	0.89	0.86
設問８							0.80	0.74	0.80	0.82	0.77
設問９								0.90	0.93	0.95	0.91
設問10									0.92	0.93	0.93
設問11										0.96	0.92
設問12											0.95
設問13											

設問項目
設問３　先生はこの授業を学ぶ目的や到達目標について説明した。
設問４　シラバス（講義計画書）は授業の全体像を理解するうえで役に立った。
設問５　先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。
設問６　この授業の教科書は配布資料は適切であった。
設問７　先生から提示された課題（SAC での自主学習やプロジェクトなど）は教科の理解を深めるうえで有用であった。
設問８　成績評価の基準は事前に明示されていた。
設問９　先生の指導は学生の習熟度（レベル）についてよく考慮されていた。
設問10　私はこの授業で先生とよいコミュニケーションを図ることができた。
設問11　先生の教え方には熱意が感じられた。
設問12　私はこの授業に満足した。
設問13　私はこの授業に熱心に取り組んだ。

６．体育科目の集計結果と分析

（１）平均ポイントの推移

体育科目は総数13で、学生から提出された調査票の総数（サンプル数）は約300点である（08年度後期）。03年度から08年度までの後期における専門科目の集計結果を図表２(d) に示す。体育科目ではどの設問も他の科目と較べて非常に高い平均ポイントを示している。08年では最も低い［シラバス］が4.39で、多くは4.5台、4.6台と極めて高い。他の科目と異なり［教員の熱意］よりも［学生の熱心度］の方が高く、最も高いのが「学生の満足度」となっている。体育科目は他と較べてサンプル数が少なく、平均ポイントの内訳、設問間の相関は省略する。

図表２(d)　体育科目設問の平均ポイント

設問キーワード	３年	４年	５年	６年	７年	８年
目標				4.61	4.43	4.49
シラバス						4.39
目的	4.46	4.65	4.35			
重点の分かりやすさ	4.44	4.51	4.31			
興味				4.6	4.53	4.56
指示	4.35	4.49	4.34	4.62	4.52	4.57
積極的参加	4.39	4.54	4.43	4.63	4.56	4.61
コミュニケーション	4.17	4.38	4.29	4.52	4.54	4.55
体力・技術	4.48	4.53	4.42	4.58	4.6	4.61
楽しみ方			4.44	4.64		
チャレンジ精神	4.35	4.5	4.38	4.56	4.53	4.6
成績基準					4.45	
教員の熱意	4.21	4.34	4.36	4.55	4.49	4.55
学生の満足度	4.53	4.62	4.38	4.65	4.59	4.66
学生の熱心度	4.59	4.61	4.51	4.65	4.62	4.64

７．入学年度別平均ポイントの推移

ゆとり教育は強く批判されている。ゆとり教育で育った学生が大学にはじめて入学した2006年には、大学における2006年問題として大きな関心を集めた。本学においてはどのような状況になっているかを調査するため、05年以前に入学した学生と06年以降の入学の学生の相違点を「学生の熱心度」の視点から検討する。

以下に各科目についての結果を述べるが、結論として学生の授業への取組み姿勢の自己評価の点からはゆとり教育の学生といわれる06年度以降の入学者の方が優れていると言える。

（１）専門科目

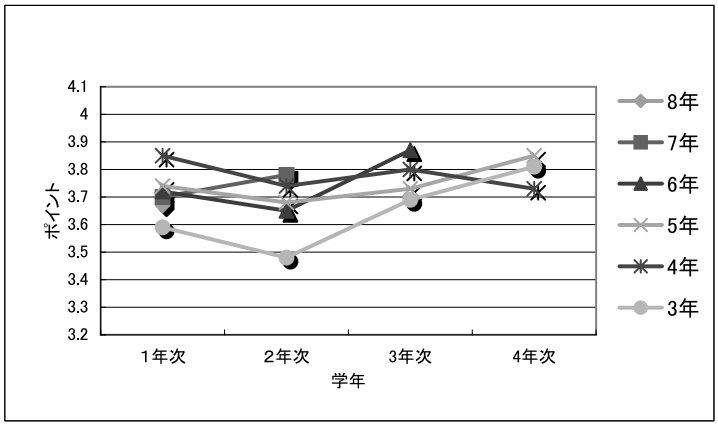
専門科目の「学生の熱心度」を入学年度別に整理した平均ポイントと学年次による変化の様子を図表７(a) 示す。03年から05年までの入学者の全般的な傾向として平均ポイントは１年次と較べて２年次で低下し、３年次で回復に向かい、03年度と05年度入学者では学生生活の４年間のなかで４年次が最も高くなっている。06年入学者は３年次まででは従来と同じ傾向を示している。しかし、３年次においてそれ以前の入学者と比較すると06年入学者の平均ポイントが最も高い。07年入学者は従来と異なり、１年次よりも２年次で高く、しかも過去６年で最も高い平均ポイントとなっている。すなわち06年度、07年度入学者とも08年度では最も高い熱心度になっている。

「学生の満足度」の満足度の平均ポイントを図表８(a) に示す。「学生の満足度」は「学生の熱心度」と較べて0.1ポイント前後高く、「学生の熱心度」とほとんど同じ変化を示している。

「学生の熱心度」、「学生の満足度」が２年次で低くなる理由として下記の理由が考えられる。１年次の科目では、１年次の学生のみの授業が多いが、２年次からは３年次、４年次学生と同じ教室で同席して講義を受けることになる。専門科目の講義内容は３年次、４年次学生に焦点があっており、全般的な基礎知識がまだ不十分な２年次学生には難解と受けとめられ、「学生の満足度」さらには「学生の熱心度」も低下する。

図表７(a)　入学年度別専門科目の熱心度

入学年度	１年次	２年次	３年次	４年次
８年	3.67			
７年	3.7	3.78		
６年	3.72	3.65	3.87	
５年	3.74	3.68	3.73	3.85
４年	3.85	3.74	3.8	3.73
３年	3.59	3.48	3.69	3.81



図表８(a)　入学年度別専門科目の満足度

入学年度	１年次	２年次	３年次	４年次
８年	3.69			
７年	3.66	3.84		
６年	3.78	3.66	3.91	
５年	3.82	3.72	3.76	3.93
４年	3.96	3.78	3.84	3.76
３年	3.6	3.52	3.75	3.99

（２）教養教育科目

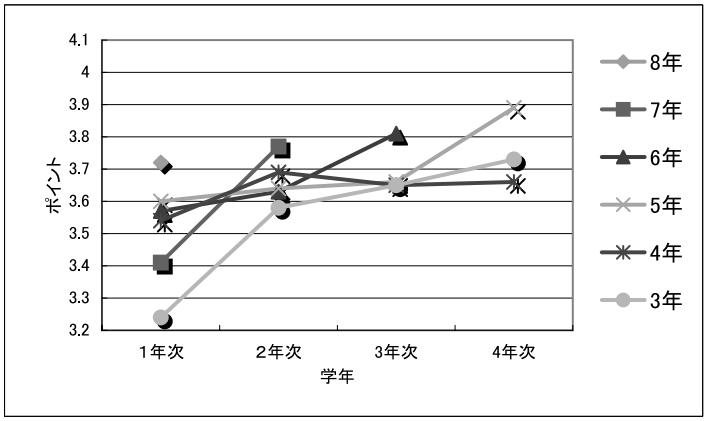
教養教育科目の「学生の熱心度」を入学年度別に整理した平均ポイントと学年次による変化の様子を図表７(b) に示す。専門科目と異なり、１年次が最も低く、上級の学年になるほど平均ポイントが高くなっている。

08年度の調査での値は過去からのデータで最高となっており、カリキュラムの改善、教員の熱意によるものも大きいと考えられるが、１年次から３年次までの値は0.1ポイント以上高くなっている。すなわち06年以降の入学者の平均ポイントが高くなっている。

「学生の満足度」の満足度の平均ポイントを図表８(b) に示す。「学生の満足度」は「学生の熱心度」と較べて0.1ポイント前後高く、「学生の熱心度」とほとんど同じ変化を示している。

図表７(b)　入学年度別教養教育科目の熱心度

入学年度	１年次	２年次	３年次	４年次
８年	3.72			
７年	3.41	3.77		
６年	3.57	3.63	3.81	
５年	3.6	3.64	3.66	3.89
４年	3.54	3.69	3.65	3.66
３年	3.24	3.58	3.65	3.73



図表８(b)　入学年度別教養教育科目の満足度

入学年度	１年次	２年次	３年次	４年次
８年	3.84			
７年	3.4	3.85		
６年	3.61	3.68	3.88	
５年	3.65	3.71	3.68	3.99
４年	3.57	3.75	3.69	3.73
３年	3.24	3.63	3.68	3.78

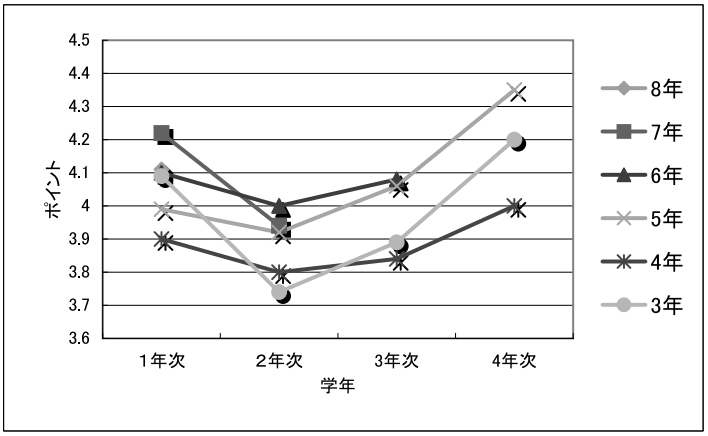
（３）語学科目

語学科目の「学生の熱心度」を入学年度別に整理した平均ポイントと学年次による変化の様子を図表７(c) 示す。語学科目の特徴として平均ポイントは１年次と較べて２年次で低下し、３年次で回復に向かい、４年次が最も高くなっている。各入学年度とも同じ動向であるが、05年度以前と較べて06年入学者では0.1ポイント高くなっている。

「学生の満足度」の満足度の平均ポイントを図表８(c) に示す。「学生の満足度」は「学生の熱心度」と較べて0.1ポイント前後高く、「学生の熱心度」とほとんど同じ変化を示している。

図表７（c）　入学年度別語学科目の熱心度

入学年度	１年次	２年次	３年次	４年次
８年	4.11			
７年	4.22	3.94		
６年	4.1	4	4.08	
５年	3.99	3.92	4.06	4.35
４年	3.9	3.8	3.84	4
３年	4.09	3.74	3.89	4.2



図表８(c)　入学年度別語学科目の満足度

入学年度	１年次	２年次	３年次	４年次
８年	4.06			
７年	4.19	3.95		
６年	4.14	3.99	4.06	
５年	4.06	3.96	4.05	4.47
４年	3.93	3.85	3.89	4.07
３年	4.01	3.7	3.89	4.21

８．あとがき

本報告は最近の６年間､03年度から08年度までの授業調査の結果をデータ集の形で提示した。この間、ほとんどの設問で学生からの評価は大きく向上していることがわかった。評価が高くなったのは学生の満足度を高めるカリキュラムの改革もさることながら、教員の努力による授業法の改善が進んでいることを示すものであろう。

ゆとり教育で学んだ学生の学力について様々な議論がある。授業調査からでは学力を判断できないが、熱心度が05年度以前の入学した学生よりも高くなっている点は評価できる。学業で最も大切なことは学ぶ意欲であり、自ら熱心に取組めば自ずと学力は身につくものである。ゆとり教育の学生が伸びて欲しいものである。

本報は、授業調査委員会委員長磯谷彰男（教務委員会委員兼務）と教務委員会委員長原田義久（授業調査委員会委員兼務）がそれぞれの立場から授業改善を意図して起稿した。教員各位

にいささかなりとも授業推進するうえで参考になるところがあれば幸いである。

最後に名古屋商科大学における授業調査システムの構築と定着・運用に尽力された栗本宏学長、FD 推進委員会委員長である小橋哲会計ファイナンス学部長、元教務委員長である垣谷宏子経営学部長をはじめとする関係各位、平成15年度以降の授業調査委員会委員である経営学部妹尾稔教授、経済学部加藤昌彦教授、外国語学部植村猛教授、外国語学部二神真美教授、また膨大なデータ処理に関して協力頂いた学生支援部門長杉浦学氏をはじめとする関係者の方々に深甚なる謝意を表します。

参考文献

（1）名古屋商科大学「21世紀の大学像をめざして」（2000）
（2）磯谷彰男「授業調査からみた授業改善の一考察」Nucb Journal of Economics and Information Science vol. 48 No.1（2003）